

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会 議 名	令和3年度姫路市介護予防事業施策評価委員会
2 開催日時	令和4年3月11日（金曜日）15時00分～16時10分
3 開催場所	姫路市総合福祉会館 5階 第2会議室
4 出席者又は欠席者	介護予防事業施策評価委員会委員（5名） 保健関係者（1名） 事務局（地域包括支援課）
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可・傍聴人：0名
6 議題又は案件及び結論等	<p>1 報告事項 令和3年度介護予防事業の実施状況について 実績報告</p> <p>2 協議事項 令和4年度介護予防事業実施について 今後の事業運営</p>
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

1 委員会の趣旨説明

2 委員紹介

3 報告事項及び協議事項

介護予防事業に関すること

(1) 令和3年度介護予防事業の実施状況について

実績報告

【資料1－7頁】

(2) 令和4年度介護予防事業の実施について

今後の事業運営

【資料8頁】

4 令和3年度介護予防事業の取り組みについて

質疑、意見

A 委員

普及啓発の実施状況について、令和元年度・令和2年度・令和3年度と実施回数が3分の2程度になっているが、これはコロナ禍での自粛の影響があったという理解でよいか。

事務局

令和2年度は年度当初から活動が自粛されていた。令和3年度は感染予防に注意しながら活動を継続するよう取り組んできた。しかし令和2年度と同じような結果になっている。

A 委員

そのようなコロナ禍で模索をしながら取り組みを行ってきたということで、その一つがケーブルテレビとYouTubeでのいきいき百歳体操の放送だが、どのような使われ方をしているか。一人でみて体操をしているのか、何人かで集まってYouTubeを見ながら体操をしているのか。

事務局

YouTubeの配信を7月21日から開始し8か月で再生が約1,400回になる。1日で約10回の再生がある。個人の場合もあれば、グループの場合もあると推測する。

グループで集まって実施している時はDVDがあるので、自宅で体操をする場合にYouTubeを見ていると推測する。

A 委員

認知症サロンについて、認知症予防のため参加者にダスクを取るようになっていたと思うが、進捗状況について、どのようになっているか。

事務局

認知症サロンで質問票を取り必要な人へはダスクを実施し支援を行っているが、令和2年度は認知症サロンはいきいき百歳体操よりも自粛をしているグループが多く、質問票が計画どおりに実施できていない。今後、分析は実施していく予定。

A 委員

集まる場所があることは大事なことで、今後も通いの場の把握と支援をお願いしたい。

事務局

はい。ありがとうございます。

B 委員

地域包括支援センターの周知ができているのか疑問に思う。

介護が必要な状態にならないと地域包括支援センターに関心がない。介護ボランティア事業や他の取り組みも行っているが介護予防とつながっていないのではないかと。

YouTube 配信も行っているが、YouTube は面白ければ何万回と再生される。認知症サロンについても周知されていない。取り組みでもう少し工夫が必要ではないかと。

地域包括支援センターが予防や介護保険を利用する前の必要な役割を果たせていると思っているか。

事務局

介護予防の取り組みには智恵や工夫は必要だと思っている。コロナ禍の状況で知恵を出して取り組んだ一つがケーブルテレビや YouTube 配信。来年度はいきいき百歳体操の参加者にポイント付与を考えている。活動が減少している状況で、外に出るきっかけやモチベーション維持となるような仕掛けも必要だと考えている。介護が必要な人を減らしたり遅らせたりする事に結び付けたいと考えて常に業務を行っている。

B 委員

無駄なことをしているという意味ではないが、難しいことだが常に工夫していくことが必要だと思ったので申し上げた。

事務局

ご意見を参考に業務を行っていく。

C 委員

YouTube の広報を住民にどのようにしているか。

事務局

体操参加者へはグループ訪問時に伝えている。その他に包括たよりに掲載したりチラシを作成して広報をしている。

C 委員

高齢者が YouTube を活用するには行程が多く大変なので、簡単に活用できればよいと思う。市のホームページにリンクがあれば簡単に見れるのではないかと。また新規の利用者を増やしていかないと利用者は増えないと思うが、どうすれば増えるかを考えていくことが大事になる。YouTube は自分のタイミングでできるが一方通行になる。いきいき百歳体操の良いところは、通いの場で一緒にすることで一体感ができる。Zoom アプリ活用できれば参加者の交流もできてよいのではないかと。

もう一点だが、コロナの影響で休止をしたグループが多いと報告にあったが、グループから陽性者や濃厚接触者が出たのか、感染予防のために休止をしたのか。

事務局

YouTube は姫路市のホームページにリンクがあるので、ホームページから見れるようになっている。通いの場なので通っていくことで交流ができることが一番のメリットになる。動画の最後には、出演している地域包括支援センターの職員が参加勸奨をしている。しかしコロナ禍でいつまで現状が続くかがわからないため、オンラインでより簡単にできる方法を検討していくことは必要だと思

っている。

もう一点の質問だが、通いの場でコロナが発生したことは報告はない。感染予防に留意し活動は継続するように伝えているが、感染予防として自主的に自粛をしているグループが多くなっている。

C 委員

感染予防対策の正しい知識の普及が大切ではないか。コロナ禍で2年経過しており、通いの場に行かないことで介護状態に陥るリスクが出てきている。体調管理や接触の仕方などを参加者にも伝えていくことで、グループは活動しながら体調が悪い場合は個人が休むようにする方法をとるようにすればよいのではないか。

委員長

感染予防対策をしても、通いの場での活動がいろいろなところで休止している。今後について医師会の立場から対応についてアドバイスはあるか。

A 委員

一般的に、ディスタンスを保つ・マスクを着用する・ワクチンを勧奨する等で、これは社会生活を回していく上で色々なところで言われていることである。

委員長

今後いろいろな場面でどのように対応していくかが問われている。事務局で各委員の意見を精査し、次の課題に活かしていただきたい。

D 委員

YouTube 動画だが、実際にやってみるといい運動になる。30分の体操は長いので分けてもよいのではないか。

事務局

実際に通いの場に参加している方は高齢者だが、30分の体操を手足におもりをつけて行っている。後期高齢者も多いが、30分の体操を毎回できている。

D 委員

6月に歯科医師会で後期高齢者の歯科健診を実施しているが、コロナ禍で緊急事態宣言がでて大勢の人が受診している。待ち時間があるのでチラシを配布したり YouTube を流したりできるのではないか。QRコードがあれば職員が手伝ってダウンロードの手伝いをすることはできると思う。

委員長

参考にしていきたい。

5 令和4年度介護予防事業の実施について

質疑・応答

A 委員

いきいき百歳体操について、感染管理を行っていきながら実施していくにあたり、ガイドラインはあるのか。

事務局

令和2年度の末に全面休止から再開にあたり、おもりの取り扱いや体操実施時の距離、マスクの着用、消毒やおもりの保管についての注意点をまとめたものを地域包括支援センターを通じて

配布したり、兵庫県から通知がある度に配布はしている。

A 委員

感染事故が起きた時にガイドラインに基づいて対応しているということが言えればよい。ガイドラインの啓蒙もできればよいのではないか。

委員長

特に用具については多人数で使用したり共有する。使ったら消毒をするなど最善を尽くしていただきたい。

C 委員

目標値について、コロナを見越しての数値か。令和3年度の実績が目標値に達していないのに令和4年度はさらに目標が高くなっており違和感がある。

事務局

ここに挙げている目標は、第8期の介護保険計画を作成した時の目標で、令和3年3月の時点で作成したものになっている。令和元年度の実績をベースに作成しており、コロナの影響は全く加味されていない数値になっている。

達成するのはかなり厳しい状況だが、目標値なので意気込みも必要だと思っている。

C 委員

フレイルチェック票を今年度から実施しており、令和4年度には活用が増えてくと想定されるが、このフレイルチェック票は個別対応をしているということでよいか。

事務局

地域包括支援センターの職員が出向いて実施をしている。気になる人は個別で対応したり、保健所が実施している専門職相談を紹介する。地域包括支援センターが通いの場への継続支援として使用している。参加者が自分のチェックをすることで参加者自身の意識づけや、経年的に変化を見ていくことに活用している。フレイルチェック票をもとに通いの場に歯科衛生士に来てもらい、オーラルフレイルについての健康教育を実施したグループもあるので、次の取り組みにつなぐ活用も行っていく。

C 委員

いきいき百歳体操のリハビリテーション活動支援事業に専門職として関わっているが、個別指導だけでなく、全体の参加者に対してフレイルや運動の話もしている。専門職を継続参加や参加者を増やすエッセンスとして活用してほしい。

事務局

リハビリテーション専門職を活用したグループは満足しているが、活用件数が少ないという現状になっている。

活用が少ない理由として、予算に限りがある、それぞれの包括支援センターが担当しているグループの中から選定するのが難しい。個別対応になっているが対象を選定するためのアセスメントがしにくいなどがある。

D 委員

フレイルチェック票は複写になっているか。

事務局

はい。

D 委員

個人でも経年的に確認できるものがあればよい。個人が目標を設定し達成に向けて取り組めるように活用できれば良いと思う。

委員長

行動変容につながるのは、いちばんは数値。前年度と比較して少しでも変わったことが継続の力になる。今の意見は非常に大切なこと。参考に進めてほしい。

A 委員

認知症サロンに対するアプローチの継続をお願いしたい。認知症疾患医療センターとしても協力できる場所があれば声をかけてほしい。MCI は非常に大事なターゲットである。MCI が何人いるかよりも、MCI の状態から引き戻すためにできることがある。担当として大切なことだと思う。

委員長

非常に貴重な意見をありがとうございます。

各委員からいただいた意見を反映し、年度末に関係者が少しでも喜ぶ結果が報告できるように、事務局をお願いしたい。

6 閉会